

## 第6回 和歌山市立学校適正規模適正配置調査検討委員会 会議録概要

《日時》 平成21年7月31日(金)午後3時～午後4時30分

《場所》 和歌山市役所 14階 会議室

《出席者》 和歌山市立学校適正規模適正配置調査検討委員会委員(12人)敬称略

会長 矢萩喜孝(和歌山大学教育学部 教授)

副会長 杉山清一(和歌山市自治会連絡協議会 会長)

委員 足立基浩(和歌山大学経済学部 准教授)

川野雅章(和歌山商工会議所 青年部監事)

神崎務(野崎西小学校 教諭)

貴志節子(前広瀬小学校 校長)

金原佐知子(伏虎中学校 教諭)

坂下重幸(前和歌山市小学校PTA連合会 会長)

田中志保(弁護士)

鳥居賀柄子(宮前小学校 校長)

野間弓子(前加太中学校 校長)

矢野幸茂(前和歌山市中学校PTA連合会 会長)

事務局(10人)

教育局長 櫻原義信、教育総務部長 前北幸夫

教育総務課長 川口雅広、教育施設課長 坂上賢一郎

学校教育課長 阿形博司、教職員課長 楠井和樹

教育総務課副課長 鈴木利典、教育総務課専門教育監補 楠見健

教育総務課総務政策班長 田中利幸、教育総務課事務副主任 大北洋史

《会議次第》

(1)開会

(2)配布資料確認

配布資料

資料1・・・当面の具体的な取り組み

資料2・・・和歌山市立小学校児童数・学級数、中学校生徒数・学級数

資料3・・・規模別学級数推計

(3)前回の会議内容確認

(4)議事

1.適正規模化・適正配置の方策について

(2)大規模校に対する方向性

2.当面の具体的な取り組みについて

(1)児童・生徒数の減少についての問題提起

(2)当面の具体的な取り組み

市中心部の小規模校

3.その他

(5)閉会

## 《会議内容》

### 1．前回の会議内容確認

第5回会議録及び会議録の概要が承認された。

### 2．事務局からの説明

配布資料について説明した。

### 3．意見交換

大規模校の適正規模化・適正配置の方向性、児童・生徒数の減少についての問題提起、市中心部の小規模校に対する当面の具体的な取り組みについて意見交換がされた。

#### [主な意見]

- ・ 通学区域の変更は、自治会など地域社会と連携をとっていかなければ難しい。
- ・ 大規模校の児童生徒について隣の学校への通学を特別に認めるというような制度は学校規模を縮小する一つのアイデアではあるが、和歌山市では小学校区によって地域がまとまっていることから、そのような制度を一般化するのは難しい。
- ・ 平成27年度推計では大規模校は宮前小学校だけであり、それもやがては規模が縮小していくことが予想されるため、大規模校は無くなっていくのではないかと。
- ・ 今後、貴志中学校の生徒数が増えることが予想されるが、まず教室の増設で対応していくことでよいのではないかと。
- ・ 同じ小学校から別々の中学校へ進むような通学区域の変更は好ましくない。
- ・ 学校・家庭・地域連携事業などで、学校・家庭・地域の連携や学校への支援を推進している現状であり、通学区域変更や特別認定制度はその考え方と整合性がない。
- ・ かつては学年に7、8学級ある小学校もあり、それに比べれば今の学校は大規模という実感が無い。また、大規模校より小規模校での指導のほうが難しかった。
- ・ 学級の定員を30人にすることで学級数を増やすという方法も考えられる。
- ・ 教員が効果的な指導のできる人数が良い。しかし、子どもにとっては学級集団が人間関係の基準となることから、学級の人数をあまり減らしても良くない。
- ・ 学習指導面では少人数指導が学力向上に繋がる一方で、学級活動などでは人数が少なすぎると難しくなる。
- ・ 全校で12学級という小学校がたくさんある。近い将来、これらの学校は12学級未満になることも予想されることから、市全域にわたる学校の再編成は時期尚早とは言えない。
- ・ 適正規模化を進める学校や地域だけではなく、全ての学校について将来の見通しを持ち、学校関係者や保護者、地域住民の問題意識を高めていくことが特に大切である。
- ・ 若い世代が住みやすいようにして、その地域の人口増加を促進させるといった政策もある。様々なオプションを考えながら進めること、市特有の人口流動の傾向を把握すること、都市政策全体からの観点を持つことなどが大切である。
- ・ 学校施設の有効利用は大切である。特に、市中心部には効果的に利用できる場所がたくさんあり、様々な活用方法や可能性が考えられる。
- ・ 公立学校で小中一貫教育を実施している例はまだ少ない。取り入れるのであれば、教育的なメリットを生み出せるように十分に配慮するべきである。また、保護者や地域住民との十分な対話、通学距離が長くなるなどのデメリットを解消するほどの良いものが必要である。